

厚生労働科学研究費補助金【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
HIV 検査体制の改善に向けた戦略研究（今村顕史） 報告書

診療所におけるゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・STI 検査機会の提供

◎研究協力者	川畑 拓也	(地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所)
研究協力者	阪野 文哉	(地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所)
研究協力者	浜 みなみ	(地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所)
研究協力者	青木 理恵子	(特定非営利活動法人 CHARM)
研究協力者	朝来 駿一	(ふれんどリー-KOBE)
研究協力者	石井 豊	(石井クリニック)
研究協力者	石川 泰章	(石川泌尿器科)
研究協力者	今西 治	(いまにし泌尿器科)
研究協力者	岩佐 厚	(岩佐クリニック)
研究協力者	笠井 大介	(笠井医院)
研究協力者	菅野 展史	(菅野クリニック)
研究協力者	清田 敦彦	(清田クリニック)
研究協力者	栗原 陽次郎	(近藤クリニック)
研究協力者	澤田 暁宏	(兵庫医科大学)
研究協力者	塩野 徳史	(MASH 大阪)
研究協力者	杉本 賢治	(京橋杉本クリニック)
研究協力者	谷口 恭	(谷口医院)
研究協力者	中村 幸生	(中村クリニック)
研究協力者	西岡 弘晶	(神戸市立医療センター中央市民病院)
研究協力者	西田 明子	(大阪府健康医療部保健医療室感染症対策課)
研究協力者	福原 恒	(平成泌尿器科クリニック)
研究協力者	前田 裕弘	(まえだクリニック)
研究協力者	吉田 昂汰	(いだてんクリニック)
研究協力者	渡邊 大	(国立病院機構大阪医療センター)
研究分担者	今村 顕史	(東京都立駒込病院)

研究要旨

ハイリスク層向けの検査提供のモデルとして、ゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・STI 検査の提供を試みた。方法としては、大阪府が実施する診療所を窓口としたゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症検査キャンペーンに併せ、大阪府内と兵庫県阪神地域の合計 3 ヶ所のクリニックの協力のもと、HIV と STI の検査を通常検査で提供した。また、受検者の背景やリスクを解析する目的で、通常検査の受検者を対象としたアンケート調査を行った。

検査の総受検者数は 466 名（通常検査が 129 名、即日検査が 337 名）であり、新規 HIV 陽性者は 1 名（通常検査 0 名、即日検査 1 名）であった（陽性率 0.21%）。総受検者数は昨年度（640 名）と比較して 27.2%減少したが、HIV 迅速検査試薬の供給不安定化により 2 期の検査提供を中止したことが影響した。

通常検査の受検者のうち 121 名からアンケートへの同意と回答を得、解析を行った。

A. 研究目的

大阪府とその近郊の未診断の HIV 感染者を早期に診断し、治療へ繋げることで、地域にお

ける新規 HIV 感染を減少させ、HIV 流行を終息へと向かわせる事を目的として、HIV 感染に対してリスクの高い行動を取っている

MSM に対し、受検しやすいクリニックを受検場所とした HIV と STI の検査を提供した。

B. 研究方法

エイズ予防のための戦略研究（平成 18 年度～平成 22 年度）において、診療所を窓口とし、広報・啓発の対象をゲイ男性のみに限った、国内で最初の検査事業「クリニック検査キャンペーン」を平成 19 年より開始した。

開始後この検査事業において、同地域の保健所等における無料匿名 HIV 検査と比較して、高い HIV 陽性率がみとめられたため、平成 26 年（2014 年）より大阪府によって経常事業化された。大阪府で事業化した際、迅速検査試薬を利用した即日検査を全ての協力クリニックにおいて提供するようになった。しかし、それまで協力が得られていたいくつかのクリニックには即日検査を導入できないところもあり、検査事業に引き続き協力いただくため、そうしたクリニックにおいては通常検査の提供を、研究として実施してきた。

今年度も大阪府ではエイズ対策の一環として、診療所・クリニックを窓口としたゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症（STI）即日検査事業が実施された。そこで本研究では、大阪府の診療所・クリニックを窓口としたゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症（STI）即日検査事業と同様の HIV・性感染症（STI）検査キャンペーンを、大阪府内と兵庫県阪神地域の計 3 か所の診療所医師の協力を得て、大阪府の事業と同時期に実施し、広報も統一することで、利用者からは一つのキャンペーンとして見えるように実施した（大阪府の事業では、今年度 11 か所の診療所が協力し、うち 1 か所は今年度から新たに協力が得られた診療所であった）。キャンペーンは、大阪府の即日検査を令和 6 年 8 月 19 日から 9 月 30 日までの 1 期と、11 月 1 から 12 月 14 日までの 2 期の二度実施し、本研究による通常検査を、その間の期間である、10 月 1 日から 10 月 31 日までの 1 期のみ実施することとした。キャンペーンの特設 Web サイトとゲイ向け出会いアプリの広告、大阪府内と京都市内の商業施設へのキャンペーンリーフレットの配布などの広報は MASH 大阪が担当し、兵庫県内の広報はふれんどリー-KOBE が担当した。

本研究では、HIV 抗原抗体スクリーニング検査、梅毒 TP 抗体検査、脂質抗体検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、クラミジア遺伝子検査（尿検体による）、HTLV-1 抗体検査を、一週間後の結果返しの通常検査として提供し、検査は各クリニックからそれぞれが契約する民

間検査会社に委託実施した。（大阪府事業では即日検査による HIV 抗原抗体スクリーニング検査、梅毒 TP 抗体検査、HBs 抗原検査を提供し、検査は各クリニックにおいて迅速検査試薬を用いて実施された。）通常検査、即日検査にかかわらず HIV スクリーニング検査で陽性になった場合には、大阪健康安全基盤研究所において HIV 確認検査を実施した。また、受検者の属性や受検行動を解析し、検査提供方法の今後の改善に利用するため、通常検査受検者に対し自記式アンケート調査を実施した。

（倫理面への配慮）

本研究は地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 倫理審査委員会の承認を得て実施した（申請番号：1802-06）。

C. 研究結果

令和 6 年 10 月 1 日から 10 月 31 日までの間に本研究で提供した通常検査の受検者数は 129 名で、HIV 陽性者はみられなかった。一方、即日検査においては、本年度 8 月末より、HIV 迅速検査試薬製造企業からの試薬の供給が不安定になり、大阪府が実施する検査キャンペーン事業の 2 期分の検査試薬の確保の見通しが立たなくなったため、大阪府は 11 月 1 日から開始予定であった 2 期の検査提供を中止した。

そのため 8 月 19 日から 9 月 30 日までの 1 期のみ提供となった大阪府事業における即日検査の受検者数は 337 名となり、昨年の 416 名から 19.0%減少した。通常検査と即日検査を合わせた全体の受検者数も、昨年度の 640 名から今年度は 466 名と 27.2%減少した。

今年度の新規 HIV 陽性者は即日検査における 1 名（0.21%）のみであった。今年度同時期の大阪府内の保健所・特設検査場の HIV 陽性率はまだ集計中であるが、今年度のキャンペーンの陽性率は、保健所・特設検査場の陽性率とほぼ同程度となる可能性が高い。なお、大阪府の検査事業で今年度新たに協力が得られた診療所において、治療中の HIV 陽性者 35 名が STI 検査を受検する目的で、本キャンペーンを利用した。

通常検査実施診療所で実施した受検者のアンケート調査では、121 名から同意のもと回答を得た。その結果では、受検者の年齢は 30 歳代が最多（41.3%）で、以下、40 歳代（22.3%）、20 歳代（15.7%）、50 歳代（14.0%）と続いた。居住地域は大阪市が最多（50.4%）で、2 診療所が位置する兵庫県が 16.5%と 2 番目に多く、以下、その他の大阪府（9.9%）、他府県（7.4%）、吹田市（3.3%）、堺市（3.3%）と続いた。

過去の HIV 検査の受検歴では、受検歴有りが 85.1%、生涯初受検が 12.4%であった。
過去の受検時期は、6 か月間以内が 36.4%、6 か月から 1 年以内が 33.1%、過去 1 年から 3 年が 13.2%、過去 3 年以前が 1.7%と、過去 1 年以内に約 7 割の人が、過去 3 年以内では 82.7%の人が受検していた。(生涯初受検の 15 名(12.4%)を除き、受検歴がある人に限ると、6 か月間以内が 41.5%、6 か月から 1 年以内が 37.7%、過去 1 年から 3 年が 15.1%、過去 3 年以前が 1.9%と、過去 1 年以内に約 8 割の人が、過去 3 年以内では約 95%の人が受検していた。)検査を受けるに至った心配事(複数回答)については、89.3%が男性との性行為、11.6%が女性との性行為、7.4%が性風俗の利用または従事と回答した。また、2.5%(3 名)が PrEP を希望しているため、という選択肢を選んだ。性行為の相手は、男性のみが 75.2%、男性と女性が 16.5%であったが、2.5%(3 名)が女性のみと回答した。
性感染症の罹患歴(複数回答)では、梅毒が最多(28.1%)で、以下、性器クラミジア(20.7%)、尖圭コンジローマ(14.0%)、淋病(13.2%)、B 型肝炎(9.9%)、性器ヘルペス(5.8%)と続いた。
過去の受検場所(複数回答)では、本キャンペーン実施クリニックが最多(65.3%)で、以下、保健所(33.1%)、大阪府と大阪市が設置する特設検査場(chotCAST)(28.9%)、キャンペーン実施クリニック以外のクリニック(24.0%)と続いた。
キャンペーンの利用歴では、昨年度に利用した人が 54.5%と半数以上に上る一方で、過去にキャンペーンを利用していないと回答した「キャンペーン初利用者」が 26.4%もいた。
本キャンペーンを利用するきっかけとなった情報源(複数回答)は、出会い系アプリの広告が最多(48.8%)で、以下、WEB サイト(26.4%)、小冊子(キャンペーンリーフレット)(14.9%)、友人の紹介(11.6%)と続いた。
本キャンペーンを利用した理由(複数回答)では、無料が最多(88.4%)で、以下、毎年利用している(43.0%)、受けやすい時間・場所だから(40.5%)と続いた。
受検したクリニックを選んだ理由(複数回答)では、駅から近いが最多(52.9%)で、以下、医師の対応が良い(44.6%)、時間帯が良い(33.9%)、土曜日に受けられる(24.8%)と続いた。
セックスする相手とどこで知り合うか(複数回答)では、出会い系アプリが最多(71.1%)で、以下、ハッテン場(42.1%)、SNS(33.9%)と

続いたが、ゲイバーやクラブは少なかった(それぞれ 8.3%、1.7%)。
性感染症の予防に関する情報を入手する場所は、インターネットが最多(86.0%)で、コミュニティセンターは 11.6%と低かった。

D. 考察

受検者数についてみると、昨年度の本キャンペーンの受検者数は、通常検査が 224 名、即日検査が 416 名、総受検者数は 640 名であったが、本年度の受検者数は、通常検査が 129 名、即日検査が 337 名、総受検者数は 466 名となり、昨年度と比較して通常検査は 42.4%、即日検査は 19.0%、全体では 27.2%減少した。通常検査と即日検査、それぞれの受検数が減少した理由を、以下検討する。通常検査ではこれまで、臨床検査会社 1 社に全ての診療所の検査を受注いただくことで検査費用を低く抑えることができていたが、今年度は検体輸送にかかるコストの高騰を理由に、本検査事業の検査をどこにも受注いただくことができず、通常検査自体の提供が危ぶまれる事態となった。そこで、協力診療所それぞれが普段利用している臨床検査会社に検査を委託していただくことでその事態を解決したが、代わりに検査のコストが高くなってしまうことにつながり、予算の不足が懸念される事態となり、これまで 2 期提供してきた通常検査を 1 期しか提供できなくなった。一方、即日検査においては、結果の項にも記載したとおり、迅速検査試薬の供給が不安定になり、提供期間中に試薬が足りなくなってしまう、受検希望者とクリニックの間で混乱が生じてしまうことを避けるため、広報の修正に間に合うぎりぎりの時点で 2 期の実施を決定し、1 期しか実施しなかったことが、受検者数が減少する原因となった。しかし、減少割合が 19%程度に留まったのは、今年度、新たに協力してくださったクリニックに 100 名以上の受検者が訪れたお陰であった。また、このクリニックには多くの治療中の HIV 陽性者が訪れており、その方たちの梅毒抗体検査や B 型肝炎抗原検査を受検したいというニーズをうまく捉えることができたことも大きいと考える。一方で、治療中の HIV 陽性者には HIV 抗原抗体スクリーニング検査は不要であるため、今年度は全ての受検者に HIV スクリーニング検査を受検していただいたが、次年度からは、そのクリニックに通院中であるなど、治療中と確実に分かる HIV 陽性者が受検する場合には、HIV スクリーニング検査は省略して良いとするなど、柔軟なルールを検討していく必要があると考えられた。

今年度、通常検査受検者に対し、アンケート調査を行うことで、受検者の背景を検討することができた。特に生涯初受検の人の割合が12.4%と1割を超えていたことは、こうした検査を提供する十分な動機・理由となりえると考えられる。また、本検査キャンペーンを初めて利用した人の割合が26.4%と、通常検査の全受検者の4分の1に達していた。一方で、受検者の約半数が出会い系アプリの広告が検査を受けるきっかけとなったと回答しており、検査キャンペーンの広報・啓発を行う上で、出会い系アプリへの広告の掲出は、今後も新規利用者を開拓するために必須であると考えられた。

抗 HIV 薬の暴露前予防内服 (PrEP) に関しては、今回、アンケートでは利用状況に関する質問は設けなかったため、キャンペーン受検者における PrEP の利用状況は不明である。しかし、検査を受けた理由を尋ねた質問で、3名(2.5%)が「PrEPを希望しているため」と回答していた。このことから、大阪地域においては、PrEPの普及率は今のところ低いと推測されるが、次年度はPrEPの利用状況に関する質問を設け、明らかにしていくことを検討している。

E. 結論

今年度も、ゲイ・バイセクシュアル男性にHIV・性感染症検査を提供し、新規HIV陽性判明者を医療へ繋げ、また、治療中のHIV陽性者に性感染症の検査機会を提供し、性感染症の拡大防止に貢献した。次年度も無料HIV・STI検査を提供し、地域のHIV感染拡大防止に寄与したい。また検査受検者に対してアンケート調査を行うことで、受検者の背景を検討し、検査事業の改善に利用したい。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、森 治代、大阪健康安全基盤研究所におけるHTLV-1確認検査。地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所研究年報 第7号 2023年度 P62-65 令和6年(2024年)1月
2. 椎野禎一郎、鴻永博之、今橋真弓、渡邊 太、南 留美、蜂谷敦子、西澤雅子、林田庸総、吉田 繁、豊嶋崇徳、伊藤俊広、古賀道子、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、

渡邊珠代、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、仲村秀太、松下修三、吉村和久、杉浦 互、菊地 正、薬剤耐性HIV調査ネットワーク、国内HIV-1伝播クラスターの2022年の動向: 薬剤耐性HIV調査ネットワークによるSPHNCS年報。日本エイズ学会誌, 26(3):139-150, 2024年

3. 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、長島真美、河上麻美代、貞升健志、佐野貴子、加藤真吾、須藤弘二、近藤真規子、今村顕史、地方衛生研究所におけるHIV確認検査に関するアンケート調査結果。病原微生物検出情報 (IASR)、45(10)、165-166、2024年

2. 学会発表

1. 大瀨侑季、志牟田健、中山周一、森田昌知、吉田 愛、高橋英之、安田 満、川畑拓也、大西 真、明田幸宏、国内分離株における *Neisseria gonorrhoeae* の分子型別解析。第35回日本臨床微生物学会学術集会、横浜市、2024年
2. 阪野文哉、浜みなみ、小島洋子、森 治代、川畑拓也、菊地 正、HIV 確認検査陽性検体における HIV 薬剤耐性変異とサブタイプ。第37回近畿エイズ研究会学術集会、大阪市、2024年
3. 森田 諒、川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、白野倫徳、RPR 陰性を維持したが *Treponema pallidum* PCR 検査により早期に診断し治療し得た、PLWH の早期梅毒第1期の1例。第37回近畿エイズ研究会学術集会、大阪市、2024年
4. 川畑拓也、梅毒トレポネーマのPOCTと薬剤耐性について。第37回近畿エイズ研究会学術集会・第12回日本性感染症学会関西支部総会 合同ミニシンポジウム「増え続ける梅毒にどう立ち向かうか」、大阪市、2024年
5. 川畑拓也、梅毒トレポネーマの核酸増幅検査とその応用。衛生微生物技術協議会 第44回研究会 シンポジウム I 梅毒、東京都、2024年
6. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、大阪府域における HIV 感染の現状と大阪府域の HIV 検査体制。第14回 AIDS 文化フォーラム in 京都、京都市、2024年
7. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、大隈 和、高 起良、藤 重夫、竹田裕紀、三浦清徳、大阪府内自治体の HTLV-1 と感染症対策担当者を対象とした研修会とそのアンケート調査結果。第10回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京都、2024年
8. 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、長島真美、

9. 河上麻美代、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、加藤眞吾、今村顕史. 地方衛生研究所における HIV 確認検査に関するアンケート調査結果. 第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京都、2024年
10. 阪野文哉、浜みなみ、小島洋子、森 治代、川畑拓也、菊地 正. HIV 確認検査陽性検体における HIV 薬剤耐性変異とサブタイプ. 第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京都、2024 年
11. 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、朝来駿一、陰山朋久、町登志雄. クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン 2023 年度実績報告. 日本性感染症学会第 37 回学術大会、沖縄県、2024年
12. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、中村幸生、杉本賢治、吉田光宏、大隈 和. 大阪府近郊の MSM における HTLV-1 水平感染の検出. 日

本性感染症学会第 37 回学術大会、沖縄県、2024 年

13. 森田 諒、川畑拓也、浜みなみ、阪野文哉、白野倫徳. リアルタイム PCR を用いた先天梅毒児における *Treponema pallidum* の感染動態に関する検討. 日本性感染症学会第 37 回学術大会、沖縄県、2024 年

3. ガイドライン・指針等

1. 今村顕史、土屋菜歩、生島 嗣、今井光信、大木幸子、加藤眞吾、川畑拓也、城所敏英、近藤真規子、貞升健志、佐野貴子、須藤弘二. 保健所等における HIV 検査・相談のガイドライン 第 5 版（令和 6 年 3 月版）. 2024 年

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

なし

検査を受ける人を対象としたアンケートご協力のお願い(令和 6 年度用)

○このアンケートは（地独）大阪健康安全基盤研究所が実施する調査です。

（研究責任者:厚生労働科学研究 研究協力者 川畑拓也）

- ・このアンケートは今後のエイズ対策に活かすために必要なアンケートです。
- ・回答は無記名です。個人が特定されることは絶対にありません。
- ・回答しにくい、回答したくない質問は空白でも結構です。途中で取りやめることもできます。
- ・アンケートは、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業研究班により集計・分析し学会等で発表する事があります。

○このアンケートの目的を理解し、アンケートに回答することを同意いただける方は下記□に✓してください。

- ☐ 同意します ⇒下記質問にお答えください。
☐ 同意しません ⇒アンケートは終了です。

○本アンケートに関する質問のご連絡先：（地独）大阪健康安全基盤研究所 TEL06-6972-1402（直通）

検査受診日 月 日

以下の質問について、あてはまる回答の□に✓、（

）に文字を記入してください。

問 1 あなたの年齢を教えてください。（✓は 1 つのみ）

- ☐ 1. 10 歳代 ☐ 2. 20 歳代
☐ 3. 30 歳代 ☐ 4. 40 歳代
☐ 5. 50 歳代 ☐ 6. 60 歳以上

問 2 あなたのお住まいはどちらですか。（✓は 1 つのみ）

- ☐ 1. 大阪市 ☐ 2. 堺市 ☐ 3. 東大阪市
☐ 4. 高槻市 ☐ 5. 豊中市 ☐ 6. 枚方市
☐ 7. 八尾市 ☐ 8. 寝屋川市 ☐ 9. 吹田市
☐ 10. その他の大阪府（ ）
☐ 11. 兵庫県
☐ 12. 他府県（ ）

問 3 今回を除いて、これまでに HIV 検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？（✓は 1 つのみ）

- ☐ 1. ある
☐ 2. ない（今回が初めての検査）→ 問 5 へ

問 4 一番最近に、HIV 検査（エイズ検査）を受けたのはいつですか？（✓は 1 つのみ）

- ☐ 1. 過去 6 カ月の間
☐ 2. 過去 6 カ月以上前～過去 1 年の間
☐ 3. 過去 1 年以上前～過去 3 年の間
☐ 4. 過去 3 年以上前

問 5 今回、検査を受けられた理由は、どれにあてはまりますか？
（あてはまるものすべてに✓）

- ☐ 1. 男性との性的接触による感染が心配なため
☐ 2. 女性との性的接触による感染が心配なため
☐ 3. 注射針などの共用による感染が心配なため
☐ 4. 医療従事者としての針刺しなどによる感染が心配なため
☐ 5. 性風俗店の利用、または従事による感染が心配なため
☐ 6. PrEP 療法（暴露前予防投与）を希望しているため
☐ 7. その他（ ）

問 6 あなたの性別を教えてください。（✓は 1 つのみ）

- ☐ 1. 男性
☐ 2. 女性
☐ 3. トランス男性（FtM）
☐ 4. トランス女性（MtF）
☐ 5. その他（ ）

問 7 あなたのセックスの相手を教えてください。
（あてはまるものすべてに✓）

- ☐ 1. 男性
☐ 2. 女性
☐ 3. その他（ ）

問 8 今までに罹患した性感染症を教えてください。
（あてはまるものすべてに✓）

- ☐ 1. 淋菌感染症 ☐ 2. 性器クラミジア感染症 ☐ 3. 梅毒
☐ 4. エムボックス(サル痘) ☐ 5. HIV/エイズ
☐ 6. 性器ヘルペスウイルス感染症 ☐ 7. 尖圭コンジローマ
☐ 8. B 型肝炎 ☐ 9. C 型肝炎

裏面に続く

問 9 あなたがこれまでに HIV 検査を受けた検査場所はどこですか。(あてはまるもの全てに✓)

- ☐1. 検査を受けたことがない(今回が初めて)
- ☐2. 「¥0 性病検査」実施のクリニック・診療所
- ☐3. 2 以外のクリニック・診療所・医院
- ☐4. 保健所・保健センター
- ☐5. 「Chot CAST」(大阪府・大阪市委託検査場)
- ☐6. 病院
- ☐7. 郵送検査
- ☐8. その他 ()

問 10 一番最近に、「¥0 性病検査」を利用したのはいつですか？(✓は 1 つのみ)

- ☐1. 2023 年 8 月～9 月の間
- ☐2. 2023 年 11 月～12 月の間
- ☐3. 上記以外 ()
- ☐4. 過去に「¥0 性病検査」を利用したことがない

問 11 今回検査を受けるきっかけとなった情報源は次のうちのどれですか。(あてはまるもの全てに✓)

- ☐1. 小冊子(¥0 性病検査！頼れる町のお医者さん)
- ☐2. WEB サイト
- ☐3. X (旧：ツイッター)
- ☐4. 出会い系アプリ(9 モンスターズ) の広告
- ☐5. 友人・知人の紹介
- ☐6. その他 ()

問 12 今回 ¥0 性病検査キャンペーンを利用し、HIV 検査を受けた理由を教えてください。(あてはまるもの全てに✓)

- ☐1. 無料だったから
- ☐2. 毎年利用しているから
- ☐3. 受けやすい場所・曜日・時間帯だったから
- ☐4. その他 ()

問 13 今回、この診療所・クリニックを選んだ理由を教えてください。(あてはまるもの全てに✓)

- ☐1. 医師の対応が良い
- ☐2. 駅から近いから
- ☐3. 時間帯がよかった
- ☐4. 土曜日に受けられる
- ☐5. その他 ()

問 14 セックスする相手とはどこで知り合いますか。(あてはまるもの全てに✓)

- ☐1. 出会い系アプリ(9 モンスターズ等)
- ☐2. SNS
- ☐3. ハッテン場
- ☐4. クラブ
- ☐5. ゲイバー
- ☐6. その他 ()

問 15 性感染症の予防に関する情報をどこで入手しますか。(あてはまるもの全てに✓)

- ☐1. インターネット
※具体的なサイトがあれば記載ください
()
- ☐2. コミュニティセンター
- ☐3. その他 ()

問 16 本日の検査やこのアンケートについて、ご意見等があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

封筒に入れて「クリニック・診療所スタッフ」にお渡しいただくか、「院内設置の回収ボックス」がありましたら、それにご投函いただきますようお願いします。

令和6年度受検者アンケート調査結果

	n	n=121 (%)
■あなたの年齢を教えてください。		
30代	50	(41.3)
40代	27	(22.3)
20代	19	(15.7)
50代	17	(14.0)
60代以上	4	(3.3)
10代	1	(0.8)
未回答	3	(2.5)

■あなたのお住まいはどちらですか。

大阪市	61	(50.4)
兵庫県	20	(16.5)
その他大阪府	12	(9.9)
他府県	9	(7.4)
堺市	4	(3.3)
吹田市	4	(3.3)
枚方市	3	(2.5)
豊中市	2	(1.7)
東大阪市	2	(1.7)
高槻市	0	(0.0)
八尾市	0	(0.0)
寝屋川市	0	(0.0)
未回答	4	(3.3)

■今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？

ある	103	(85.1)
ない	15	(12.4)
未回答	3	(2.5)

■一番最近に、HIV検査（エイズ検査）を受けたのはいつですか。

過去6カ月の間	44	(36.4)
過去6カ月以上前～	40	(33.1)
過去1年の間	16	(13.2)
過去1年以上前～	16	(13.2)
過去3年の間	2	(1.7)
過去3年以上前	2	(1.7)
受けたことがない	15	(12.4)
未回答	4	(3.3)

	n	n=121 (%)
■今回の検査であなたが心配に思っていることは以下のどれにあてはまりますか。（複数回答）		
男性との性行為	108	(89.3)
女性との性行為	14	(11.6)
性風俗の利用、 または従事	9	(7.4)
その他	5	(4.1)
PrEPを希望している ため	3	(2.5)
針刺し	1	(0.8)
注射針の共用	0	(0.0)

■あなたの性別を教えてください。

男性	116	(95.9)
FtM	2	(1.7)
その他	0	(0.0)
MtF	0	(0.0)
女性	0	(0.0)
未回答	3	(2.5)

■あなたのセックスの相手を教えてください。（複数回答）

男性のみ	91	(75.2)
男性と女性	20	(16.5)
女性のみ	3	(2.5)
その他	2	(1.7)
未回答	5	(4.1)

■今までに罹患した性感染症を教えてください。（複数回答）

梅毒	34	(28.1)
性器クラミジア	25	(20.7)
尖圭コンジローマ	17	(14.0)
淋病	16	(13.2)
B型肝炎	12	(9.9)
性器ヘルペス	7	(5.8)
C型肝炎	1	(0.8)
HIV	1	(0.8)
エムボックス	0	(0.0)

	n=121	
	n	(%)
■あなたがこれまでに HIV 検査を受けた検査場所はどこですか。(複数回答)		
検査キャンペーン実施のクリニック	79	(65.3)
保健所	40	(33.1)
chotCAST	35	(28.9)
検査キャンペーン実施のクリニックでないクリニック	29	(24.0)
受けたことがない	15	(12.4)
病院	13	(10.7)
郵送検査	4	(3.3)
その他	2	(1.7)

■一番最近に、「¥0 性病検査」を受けたのはいつですか。

2022 年 8 月～9 月	20	(16.5)
2022 年 11 月～12 月	46	(38.0)
上記以外	16	(13.2)
過去に利用したことがない	32	(26.4)
未回答	7	(5.8)

■今回検査を受けるきっかけとなった情報源はどれですか。(複数回答)

出会い系アプリの広告	59	(48.8)
WEB サイト	32	(26.4)
小冊子	18	(14.9)
友人の紹介	14	(11.6)
Twitter	9	(7.4)
その他	7	(5.8)

■今回 ¥0 性病検査キャンペーンを利用し、HIV 検査を受けた理由をお知らせください。(複数回答)

無料だったから	107	(88.4)
毎年利用している	52	(43.0)
受けやすい時間・曜日・場所だったから	49	(40.5)
その他	6	(5.0)

	n=121	
	n	(%)
■今回、この診療所・クリニックを選んだ理由を教えてください。(複数回答)		
駅から近いから	64	(52.9)
医師の対応が良い	54	(44.6)
時間帯が良かった	41	(33.9)
土曜日に受けられる	30	(24.8)
その他	20	(16.5)

■セックスする相手とはどこで知り合いますか。(複数回答)

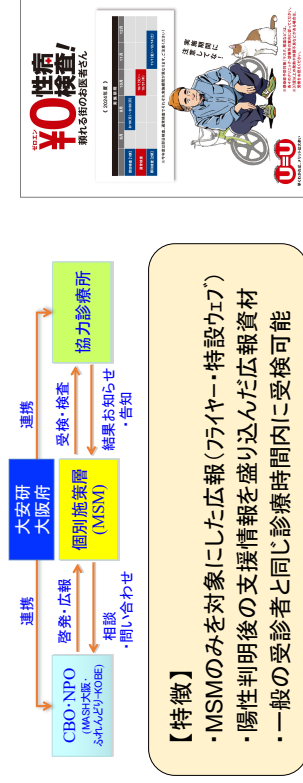
出会い系アプリ	86	(71.1)
ハッテン場	51	(42.1)
SNS	41	(33.9)
ゲイバー	10	(8.3)
その他	9	(7.4)
クラブ	2	(1.7)

■性感染症の予防に関する情報をどこで入手しますか。(複数回答)

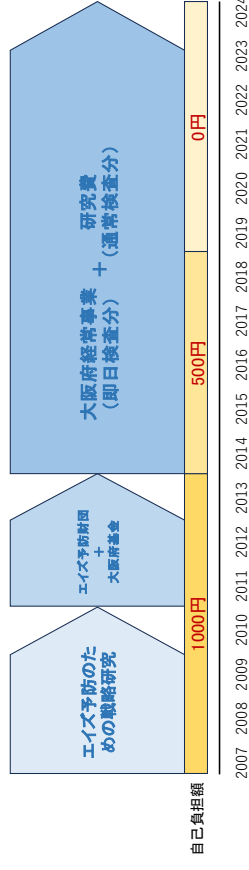
インターネット	104	(86.0)
コミュニティセンター	14	(11.6)
その他	7	(5.8)

診療所を窓口としたMSM向け検査事業
「クリニック検査キャンペーン」

大安研と大阪府とCBO・NPOが協働し、地域の診療所医師の協力のもと、MSMに対し利便性の高いHIVと性感染症の検査機会を提供するプログラム



「クリニック検査キャンペーン」予算のこれまでの変遷



2024年度検査者数

	即日	通常	計
I 期	337 (219)	129 (131)	466 (350)
II 期	- (197)	- (93)	- (290)
合計	337 (416)	129 (224)	466 (640)

2023年度と比較して即日検査、通常検査とともに検査受検者数は減少し、総受検者数は27.2%減少した。迅速検査試薬の供給不安定化により、Ⅱ期の検査提供を中止した事が大きな要因となった。

検査キャンペーンで新規に陽性と判明した人の割合

2018年以降の検査キャンペーンで、新規に陽性と判明した人の割合と、保健所・特設検査場の陽性率の比較

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
検査キャンペーンで新規にHIV陽性と判明した人の割合（％）	1.05	1.01	1.03	0.83	0.66	0.47	<u>0.21</u>
保健所・特設検査場でのHIV陽性率（％）	0.15	0.48	0.34	0.40	0.31	<u>0.28</u>	未集計